

「2024年度実務経験のある教員等による授業科目」一覧

<介護福祉科>

科目名	時数	年次	教員名	実務経歴
介護過程 I	60	1	丸岡 晃嗣	介護福祉士として実務

科目名	時数	年次	教員名	実務経歴
介護総合演習 I	60	1	美谷島 正行	介護福祉士として実務

科目名	時数	年次	教員名	実務経歴
人間関係とコミュニケーション	60	2	中島 由紀子	介護福祉士として実務

科目名	時数	年次	教員名	実務経歴
こころとからだのしくみ I	60	1	芦田 徳子	看護師として実務

寄附行為に基づく理事・監事名簿

理事

令和5年8月10日から令和9年8月9日まで

寄附行為第6条第1項	現 行	代表権を有する理事	人 数
① 設置学校校長（2人～3人）	瀧野博史 丸岡晃嗣		2人
② 評議員会（3人～4人） 評議員会において選任	本部広樹 ● 田井道治 木原茂弘 中西紳也 ● 小野貴志	理 事 長	4人
③ 学識経験者（3人） 理事会において選任	● 本部真理子 ● 山中隆央		3人

● 学外者

監事

任期 令和5年8月27日から令和9年8月26日まで

寄附行為第7条	現 行	人 数
理事会において選出した候補者のうちから評議員会の同意を得て理事長が選任	林 田 洋 木 村 直 義	2人

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤 の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前職 小学校教諭 現職 民生委員等	令和5年8月10日 ～ 令和9年8月9日	地域社会と学校の 連携等について、教 育的視線と生徒保 護者の目線で意見 を聞く。
非常勤	現職 衣類販売 (自営業)	令和5年8月10日 ～ 令和9年8月9日	社会的なニーズや データ分析等、主に 募集活動について 意見を聞く。
非常勤	前職 私立学校学院長 大阪府少林寺拳法連盟 元役員	令和5年8月10日 ～ 令和9年8月9日	当学園の教育の柱 となっている少林 寺拳法の教えと、当 学園の建学の精神 の具現化等につい て意見を聞く。
非常勤	前職 南京都高等学校 教頭 現職 浄土宗光傳寺住職	令和5年8月10日 ～ 令和9年8月9日	南京都高等学校の 入試センター長も 務め、京都廣学館高 等学校の名付け親 でもある。現在僧侶 として幅広く活躍 されているので客 観的な意見を求め る。
(備考)			

成績の分布を表す資料

《GPAの分布状況》 介護福祉科 R5年度 1年生（生徒数:31人）

番号/教科	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	平均	GPA区分
1 2317	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	1
2 2308	0	2	2	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0.7	2
3 2328	0	2	3	3	2	2	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	1	3
4 2327	2	1	2	3	2	2	1	0	1	0	2	1	1	1	2	2	1	1	1	3	1.45	4
5 2311	1	1	2	3	1	3	1	1	3	2	1	2	1	3	3	2	2	2	1	3	1.9	5
6 2315	2	2	2	3	3	1	2	1	3	3	1	2	1	3	1	2	1	3	1	3	2	6
7 2305	3	1	3	3	3	3	3	1	2	1	1	2	1	2	1	2	2	3	1	3	2.05	7
8 2321	2	1	2	3	3	3	2	2	3	1	1	1	2	2	2	3	2	3	1	3	2.1	8
9 2323	2	1	2	3	3	3	2	1	3	1	1	2	2	2	2	3	2	3	1	3	2.1	9
10 2304	2	3	3	3	3	1	2	1	3	1	2	1	1	3	3	3	3	2	1	3	2.2	10
11 2322	3	1	1	3	3	1	3	3	1	2	3	2	1	1	3	3	3	3	2	3	2.25	11
12 2310	3	2	3	3	3	3	3	2	3	3	2	2	2	2	3	1	3	1	2	3	2.45	12
13 2324	3	2	3	3	3	3	1	3	3	1	2	2	2	3	3	3	2	3	1	3	2.45	13
14 2303	3	3	3	3	3	3	2	3	3	1	2	2	2	2	3	3	3	3	2	3	2.6	14
15 2307	3	3	3	3	3	3	3	3	2	0	3	3	2	1	3	2	3	3	3	3	2.6	15
16 2319	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	2	3	1	3	3	3	2	2	2	3	2.6	16
17 2301	3	3	3	3	3	3	2	3	3	2	1	3	2	2	3	3	3	3	2	3	2.65	17
18 2331	3	3	2	3	2	3	3	2	3	2	3	3	2	2	3	3	3	2	3	3	2.65	18
19 2302	3	2	3	3	2	3	3	3	3	2	2	3	2	3	3	3	3	3	3	3	2.75	19
20 2325	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	2	3	2	3	3	3	3	3	2	3	2.75	20
21 2326	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	2	2	3	3	3	3	2	3	2.75	21
22 2320	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	2	3	2.85	22
23 2306	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1	3	3	2.9	23
24 2309	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2.9	24
25 2314	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2.9	25
26 2316	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2.9	26
27 2318	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2.9	27
28 2312	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2.95	28
29 2313	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	29
30 2329	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30
31 2330	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	31

GPA3.0以上	3
GPA2.0以上3.0未満	23
GPA1.0以上2.0未満	3
GPA1.0未満	2

下位GPA1/4
GPA : 2.1以下 (9名)

授業概要 (令和6年度)

授業のタイトル(科目名)	授業の種類			授業担当者
介護過程 I (30時間)	講義			丸岡晃嗣
講義回数	時間数(単位数)	担当学年・時期		必修・選択
90分×15回	1単位	1年	通年(前期)	必修

[授業の目的・ねらい]

他科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程を展開し、介護計画を立案して適切なケアサービスが提供できる能力を養うために、学生自身が知識や技術を統合しケアに活かす意味を理解する。

[授業全体の内容の概要]

利用者にとって最善のケアを実践するために、生活上の課題(ニーズ)を明確にしていく介護過程の意義・目的を知る。実際の事例を例に取り、ICFモデルを活用した情報収集ができる。

[授業終了時の達成課題(到達)]

利用者の個別的ニーズを的確に把握し、目的意識的に介護計画を実施し評価考案していく。ことの連続が介護過程であることと、ケアの実施において利用者の尊厳と科学的根拠に基づいた所持機能を引き出す重要性を学ぶ。

[授業の進行状況]

			実施日
1	オリエンテーション 人間の生活を支えるものについて(人文字) 実習の時期 ファイル配付		
2	介護過程とは何か・介護過程の意義について		
3	介護過程の意義と人間の生活について(アセスメント:イラストを見てグループワーク)		
4	高齢者とはどういう方なのか 自分の85歳を考える		
5	"介護過程の展開" フェイスシート 6号用紙 アセスメントとは		
6	より良い生活を目指す介護過程とは・・・ ADL ICF とは・・・		
7	生活支援システムにおける医学モデルと生活モデル (ICFの視点から考える) 小テスト		
8	介護過程の体系 (介護過程の構造と目的) 、要望とニーズの関係		
9	アセスメントの意味 (介護過程におけるアセスメント) 6号用紙の説明		
10	アセスメントの意味 (直接的・間接的な情報収集とICFを活用した情報収集)		
11	ICFとは 最初に考えた印象・その後の理解 6号用紙(利用者の特性・ジェノグラム)記入		
12	アセスメントと生活課題 (事例を基に説明) 7号用紙の説明・演習		
13	事例を基に(介護過程②)情報収集・課題分析(アセスメント)に関する項目 記入実践		
14	ICに基づくアセスメント 演習		
15	ICFの演習まとめ 前期のまとめ		

[使用テキスト・参考文献]

中央法規 介護福祉養成講座「介護過程」

* 参考資料

[単位認定の方法及び基準]

筆記試験・小テスト・授業態度・レポート提出・ノート提出にて評価

※筆記試験は後期に実施(通年)

授 業 概 要

(令和6年度)

授業のタイトル(科目名)		授業の種類		授業担当者	
介護過程 I (30時間)		演 習		丸岡晃嗣	
講義回数	時間数(単位数)	担当学年・時期		必修・選択	
90分×15回	1単位	1年	通年(後期)	必修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 他科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程を展開し、介護計画を立案して適切なケアサービスが提供できる能力を養うために、学生自身が知識や技術を統合しケアに活かす意味を理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 利用者にとって最善のケアを実践するために、課題を明確にしていく介護過程の意思を身につける。実際の事例を例に取り、グループワークやロールプレイングを行い発表する。。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達)〕 利用者の個別的ニーズを的確に把握し、目的意識的に介護計画を実施し評価考案していく。 この連続が介護過程であることと、ケアの実施において利用者の尊厳と科学的根拠に基づいた所持機能を引き出し、生活を維持することの重要性を学ぶ。</p>					
〔授業の進行状況〕					
					実施日
16	アセスメントの意味 (介護過程におけるアセスメント) 復習				
17	事例A演習①:フェイスシート6号用紙(介護過程①) ~利用者の特性・受け持つ動機~				
18	事例A演習②:アセスメント 7号用紙(介護過程②) ~情報収集・課題分析~				
19	事例A演習③:アセスメント 8号用紙(介護過程③) ~分析・統合・日常生活上の課題~				
20	事例A演習④:アセスメント 8号用紙(介護過程④) ~分析・統合・日常生活上の課題~				
21	日常生活上の課題とニーズの抽出と表現の仕方について①				
22	日常生活上の課題とニーズの抽出と優先順位について②				
23	日常生活上の課題と優先順位検討する判断基準について③				
24	日常生活上の課題と個別援助計画立案について(長期目標・短期目標)④				
25	生活支援システムにおける医学モデルと生活モデル(ICFの視点から考える)				
26	事例B 演習①:フェイスシート6号用紙(介護過程①) ~利用者の特性・受け持つ動機~				
27	事例B 演習②:アセスメント 7号用紙(介護過程②) ~情報収集・課題分析~				
28	事例B 演習③:アセスメント 7・8号用紙(介護過程③) ~分析・統合・日常生活上の課題				
29	事例B 演習⑤:アセスメント 9号用紙(介護過程⑤) ~個別援助計画の立案、評価・考察				
30	事例B 演習⑤:アセスメント 9号用紙(介護過程⑤) ~評価・考察~ まとめ				
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び基準〕		
中央法規「介護過程」、その他			(試験やノート・事例演習・出席状況の評価基準など)		

授 業 概 要(令和6年度)

授業のタイトル		授業の種類		授業担当者							
介護総合演習 I		講 義		美谷島 正行							
講義回数	時間数(単位数)	担当学年・時期		必修・選択							
30回	60単位	1年	前期・後期・ <u>通年</u>	必修							
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①居宅・通所・入所など介護サービスを利用される方の生活像と介護福祉士の役割が理解できる。 ②実習に必要な基本的コミュニケーション方法やマナー、記録の重要性について理解する。 ③実習先となる施設の特徴を理解できる ④実習のイメージを膨らませ、自身の目標を具体的にたてることことができる。 ⑤次の実習に向けての課題を導き出し、</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>①施設の理解について、学内の講義の他、見学を通して実際の施設の役割や介護福祉士の役割の理解を深める。 ②介護福祉士専門職として、マネジメント力を養うために学校行事の運営や講義内でのグループワークなど、主となって進行・運営できる。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達)〕</p> <p>①実習を通して目標の達成具合や課題を導き出し、次の実習に向けての目標ならびに学習課題を明確にする。</p>											
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業オリエンテーション「介護総合演習の位置づけ」 2 介護総合演習の目的 「介護実習の目的と意義」① 3 介護総合演習の目的 「介護実習の目的と意義」② 4 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(訪問介護)① 5 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(訪問介護)② 6 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(介護保険について) 7 実習交流会 8 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(通所介護)① 9 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(通所介護)② 10 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(通所リハビリテーション)① 11 区分Ⅰ-① 実習オリエンテーション 12 区分Ⅰ-① 実習の振り返り(1日目)※実習記録の作成 13 区分Ⅰ-② 全体オリエンテーション「実習施設と目標設定」 14 区分Ⅰ-② 個別目標指導 15 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(通所リハビリテーション)② 16 区分Ⅰ-② 実習に向けて「就職ガイダンス」 下殿様 17 区分Ⅰ-② 実習に向けて 記録の書き方 18 まとめ 											
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>介護総合演習・実習指導 第3版 (中央法規)</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">筆記試験</td> <td style="text-align: right;">60点(前・後期ともに試験)</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;">授業姿勢(レポート点・提出期限含む)</td> <td style="text-align: right;">30点</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;">出席</td> <td style="text-align: right;">10点</td> </tr> </table>			筆記試験	60点(前・後期ともに試験)	授業姿勢(レポート点・提出期限含む)	30点	出席	10点
筆記試験	60点(前・後期ともに試験)										
授業姿勢(レポート点・提出期限含む)	30点										
出席	10点										

授 業 概 要(令和6年度)

授業のタイトル		授業の種類		授業担当者	
介護総合演習 I		講 義		美谷島 正行	
講義回数	時間数(単位数)	担当学年・時期		必修・選択	
30回	60単位	1年	前期・後期・ <u>通年</u>	必修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ①居宅・通所・入所など介護サービスを利用される方の生活像と介護福祉士の役割が理解できる。 ②実習で必要な基本的コミュニケーション方法やマナー、記録の重要性について理解する。 ③実習先となる施設の特徴を理解できる ④実習のイメージを膨らませ、自身の目標を具体的にたてることできる。 ⑤次の実習に向けての課題を導き出し、 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ①施設の理解について、学内の講義の他、見学を通して実際の施設の役割や介護福祉士の役割の理解を深める。 ②介護福祉士専門職として、マネジメント力を養うために学校行事の運営や講義内でのグループワークなど、主となって進行・運営できる。 <p>〔授業終了時の達成課題(到達)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ①実習を通して目標の達成具合や課題を導き出し、次の実習に向けての目標ならびに学習課題を明確にする。 <p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 18 区分Ⅱ-①に向けて(目的とねらい) ※前期の振り返り① 19 区分Ⅱ-①に向けて(目的とねらい) ※前期の振り返り② 20 区分Ⅱ-①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 介護老人保健施設① 21 区分Ⅱ-①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 介護老人保健施設② 22 区分Ⅱ-①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 介護老人保健施設③ 23 区分Ⅱ-①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 特別養護老人ホーム① 24 区分Ⅱ-①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 特別養護老人ホーム② 25 区分Ⅱ-①全体オリエンテーション／目標指導 26 区分Ⅱ-①個別目標指導 27 区分Ⅱ-①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 特別養護老人ホーム③ 28 区分Ⅱ-①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 介護医療院① 29 区分Ⅱ-①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 介護医療院② 30 まとめ 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>介護総合演習・実習指導 第3版 (中央法規)</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>筆記試験 60点(前・後期ともに試験)</p> <p>授業姿勢(レポート点・提出期限含む) 30点</p> <p>出席 10点</p>		

授業概要 (令和6年度)

授業のタイトル	授業の種類		授業担当者
人間関係とコミュニケーション	講義		中島 由紀子
講義回数	時間数(単位数)	担当学年・時期	必修・選択
(該当回数に(○)印)	(担当時間・単位数に(○)印)	(担当学年・時期に(○)印)	[必修・選択に(○)印]
30・60	1年・2年 2単位 4単位	1年・2年 前期・後期 通年	必修 選択

[授業の目的・ねらい]

- ・対人援助関係の基礎として、人間関係の理解とコミュニケーションの知識の習得。
- ・介護の中でのチームマネジメントの必要性和、基礎的な知識を理解する。

[授業全体の内容の概要]

- ・自己と他者を理解し、対人関係とコミュニケーションの基礎や技法、組織の中でのコミュニケーションの必要性を理解する。
- ・介護サービスでのチームマネジメントの特性とその理解とチーム運営や基礎を学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達)]

- ・自己と他者を理解することで、人間関係とコミュニケーションの知識を習得でき必要性を理解できる。
- ・チームマネジメントでは特性とその理解ができ、チーム運営や基礎を学ぶ事ができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	授業予定	
1	オリエンテーション 人間と人間関係 ①自己の理解 「私のトリセツ」	
2	②自己の理解 「20答法」 自己覚知	
3	自己覚知 「ジョハリの窓」GW 「マインドマップ」	
4	自己開示と「他己紹介」 ラポールの形成	
5	人間関係形成の必要性 「ハロー効果」「ステレオタイプ」	
6	対人援助におけるコミュニケーション	
7	対人援助関係とコミュニケーション	
8	共感・傾聴について バイステックの7原則	
9	振り返り小テスト	
10	組織におけるコミュニケーションとは	
11	組織において求められるコミュニケーション 報告・連絡・相談 事例	
12	集団でアイデアを生み出す ブレインストーミング GW	
13	発達心理学からみた人間関係	
14	人間関係とストレス①	
15	人間関係とストレス②事例をグループで検討する	

[使用テキスト・参考文献]

最新 介護福祉士養成講座 1
人間の理解 第2版
(中央法規出版)

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

筆記試験	60点
レポート・提出物	20点
授業態度・意欲	20点

授業概要 (令和6年度)

授業のタイトル		授業の種類			授業担当者							
人間関係とコミュニケーション		講義			中島 由紀子							
講義回数	時間数(単位数)		担当学年・時期		必修・選択							
(該当回数に(○)印)	(担当時間・単位数に(○)印)		(担当学年・時期に(○)印)		[必修・選択に(○)印]							
30・60	1年・2年	2単位・4単位	1年・2年	前期・後期・通年	必修・選択							
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人援助関係の基礎として、人間関係の理解とコミュニケーションの知識の習得。 ・介護の中でのチームマネジメントの必要性和、基礎的な知識を理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己と他者を理解し、対人関係とコミュニケーションの基礎や技法、組織の中でのコミュニケーションの必要性を理解する。 ・介護サービスでのチームマネジメントの特性とその理解とチーム運営や基礎を学ぶ。 <p>[授業終了時の達成課題(到達)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己と他者を理解することで、人間関係とコミュニケーションの知識を習得でき必要性を理解できる。 ・チームマネジメントでは特性とその理解ができ、チーム運営や基礎を学ぶ事ができる。 <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>												
コマ数	授業予定											
16	組織におけるコミュニケーション											
17	ヒューマンサービスとしての介護サービス/サービスの4つの特性											
18	介護実践におけるチームマネジメント											
19	ケアを展開するためのマネジメント											
20	多職種チームによる視点の共有①											
21	多職種チームによる視点の共有①											
22	人材育成の・自己研磨のためのチームマネジメント											
23	介護福祉職としてのキャリアデザイン											
24	介護福祉職としてのキャリア支援・開発・スーパービジョン											
25	組織の目標達成のためのチームマネジメント											
26	介護サービスを支える組織の機能と役割/PDCAサイクル											
27	介護サービスを支える組織の管理/委員会①											
28	介護サービスを支える組織の管理/委員会②											
29	ストレスマネジメント整体体験講座											
30	国家試験対策・後期試験対策・小テスト											
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版 (中央法規出版)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">(試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">筆記試験</td> <td>60点</td> </tr> <tr> <td>レポート・提出物</td> <td>20点</td> </tr> <tr> <td>授業態度・意欲</td> <td>20点</td> </tr> </table>				筆記試験	60点	レポート・提出物	20点	授業態度・意欲	20点
筆記試験	60点											
レポート・提出物	20点											
授業態度・意欲	20点											

授業概要（2024年度）

授業のタイトル		授業の種類			授業担当者									
こころとからだのしくみ I		講義			芦田 徳子									
講義回数	時間数(単位数)		担当学年・時期		必修・選択									
(該当回数に(○)印)	(担当時間・単位数に(○)印)		(担当学年・時期に(○)印)		[必修・選択に(○)印]									
30・60	1年・2年	1単位・4単位	1年・2年	前期・後期	(通年)									
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する。 こころとからだの両面から利用者の状況を見ることができ、適切な介護方法を考える。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 1.多様化している介護サービスに対応できる専門性の根拠となる「こころとからだのしくみ」を学ぶ。 2.人間の基本的欲求や生命維持のしくみを理解したうえで、生活援助の介護実践でその関連性を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達)] 1.こころやからだのしくみを理解することができる。 2.こころとからだの状態が日常生活にどのように関与しているか、そのしくみを理解することができる。 3.正常(普段)と異常(いつもと違う)を生活場面で観察することができる。 4.利用者の状況にあわせた適切な行動を考え、述べるすることができる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>														
コマ数	授業予定													
1	本授業を学ぶ目的について、健康の考え方について、病気概念、こころとは、からだとは													
2	マズローの欲求階層説、自己実現と人間の尊厳について													
3	人体の各部の名称と各臓器、骨、筋肉													
4	脳の仕組み、はたらきを理解する													
5	こころのしくみ「学習」「記憶」、認知症について													
6	こころのしくみ「思考」「感情」「意欲」「動機」													
7	こころのしくみ「ストレス」「適応」「防衛機制」、高齢者の人格と適応													
8	脊髄神経、脳神経、中枢神経と末梢神経について													
9	こころとからだの連携、ホメオスタシス、自律神経、人体の行動とはたらき「内分泌系」													
10	人体の構造とはたらき「血液の働き」「リンパ系」「循環器」													
11	人体の構造とはたらき「呼吸器」													
12	人体の構造とはたらき「感覚器」													
13	病気や障害とこころとからだ、介護福祉職に必要な薬の知識													
14	人体の構造とはたらき「皮膚」、入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ													
15	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ													
<p>[使用テキスト・参考文献] 教科書:「最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ」中央法規、2022</p> <p>※必要時参考資料配布します</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">筆記試験</td> <td style="text-align: right;">70%</td> </tr> <tr> <td>提出物</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> </table>				筆記試験	70%	提出物	10%	授業態度	10%	小テスト	10%
筆記試験	70%													
提出物	10%													
授業態度	10%													
小テスト	10%													

授業概要(2024年度)

授業のタイトル		授業の種類		授業担当者	
こころとからだのしくみ I		講義		芦田 徳子	
講義回数	時間数(単位数)	担当学年・時期		必修・選択	
(該当回数に(○)印)	(担当時間・単位数に(○)印)	(担当学年・時期に(○)印)		[必修・選択に(○)印]	
30・60	1年・2年 1単位・4単位	1年・2年	前期・後期	通年	必修・選択

〔授業の目的・ねらい〕

介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する。
こころとからだの両面から利用者の状況を見ることができ、適切な介護方法を考える。

〔授業全体の内容の概要〕

- 1.多様化している介護サービスに対応できる専門性の根拠となる「こころとからだのしくみ」を学ぶ。
- 2.人間の基本的欲求や生命維持のしくみを理解したうえで、生活援助の介護実践でその関連性を学ぶ。

〔授業終了時の達成課題(到達)〕

- 1.こころやからだのしくみを理解することができる。
- 2.こころとからだの状態が日常生活にどのように関与しているか、そのしくみを理解することができる。
- 3.正常(普段)と異常(いつもと違う)を生活場面で観察することができる。
- 4.利用者の状況にあわせた適切な行動を考え、述べることができる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数	授業予定	
16	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	
17	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	
18	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	
19	人体の構造とはたらき「消化器」	
20	食事に関連したこころとからだのしくみ	
21	食事に関連したこころとからだのしくみ	
22	人体の構造とはたらき「泌尿器系」「生殖器系」	
23	排泄に関連したこころとからだのしくみ	
24	排泄に関連したこころとからだのしくみ	
25	移動に関連したこころとからだのしくみ	
26	移動に関連したこころとからだのしくみ	
27	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	
28	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	
29	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	
30	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ、後期試験の説明	

〔使用テキスト・参考文献〕

教科書:「最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ」中央法規、2022

※必要時参考資料配布します

〔単位認定の方法及び基準〕

(試験やレポートの評価基準など)

筆記試験	70%
提出物	10%
授業態度	10%
小テスト	10%